



公立山城病院新聞

YAMASHIRO PUBLIC HOSPITAL

日本医療機能評価機構認定病院

2007
Summer

発行元 公立山城病院
発行元責任者 中整 幸治

第一回住民医療フォーラム

6月2日(土曜日)公立山城病院会議室で第1回住民医療フォーラムが開催されました。

住民医療フォーラムは山城病院教育委員会が主催し、地域住民や病院職員対象の教育活動の一環として企画されています。

第1回目の住民公開講座は「妊娠、出産そして、子育てのために」をメインテーマに、

パート1・現在の出産を取り巻く環境「赤ちゃんに優しい出産を目指して」講師、澤田重成産婦人科部長、パート2・子育て支援「ゆりかごから成人まで」講師、辻井久小児科部長の2部構成で行われました。

パート1では、産科医療の現状について触れ、大学での医師不足、研修医制度、産婦人科での女医の増加に伴う出産・育児支援の不備などが、産科医不足に拍車をかけ、地方の中核病院には医師が来ない状況です。このような過酷な条件の中でお産難民(分娩を取り扱わない施設

が増え、お産の為に遠い施設まで行く妊婦)と言われる妊婦が増加しています。京都府北部は、北海道や東北並みに産科医療を取り巻く状況が悪いですが、京都府南部は悪条件の中でもまだ恵まれた環境と言えます。山城病院では、遠くは北海道や沖縄などからの里帰り分娩の受け入れ、助産師は14名とお産難民を作らないための努力をしていますと語られました。その他、エコーによる胎児の顔や分娩の進行状況の説明、妊娠中の注意や過ごし方、「出産は赤ちゃんの気持ちになって、ゆったりと構えて下さい。」などと参加者に説明されました。



熱心に聞き入る参加者

パート2は子育てに関する内容で、「不慮の事故」「誤ってタバコを飲み込んでしまった時の中毒センター情報」「育児のしおり」「事故の予防」「子育てに関する相談」「インターネット利用」など母子手帳の活用方法について説明がありました。また、「こんな時どうする」という緊急時の対応について、参加者は真剣に聞き入っておられました。

の年に第1回目の住民医療フォーラムを開催できました。今まで各単位で開催されていた生活習慣病や糖尿病教室を、産婦人科など全科を含めた健康情報を地域住民に計画的に提供することを目的にしています。今回は第1回目、地域に対するアピール不足もあり参加者が少数でしたが、医療フォーラムを継続し地域に根付かせることで住民医療フォーラムが地域に広がりが参加者も徐々に増えるよう努めていき、京都府南部の中核病院として健康情報の発信基地として、また、アクセス窓口としての役割を果たして行きます。」と語っておりました。今回のフォーラムは、少子化が進展する中で、地域と病院が共に妊婦や子供を支える、産み育てる支援にふさわしいテーマだったと言えます。

京都府山城南保健所中村所長は「身近な不安や相談などは気軽に保健所の窓口へ」と参加者に声をかけられていました。フォーラムには、子供を連れた妊娠中と思われる方や入院中の産後の方が参加しており「産婦人科・小児科をテーマにしたフォーラムを聞く機会が少なく大変貴重な経験をした。」「子供が二人とも早産だった。今日の話聞いて医療の進歩がよくわかり安心した。」「小児科『こんな時どうする』という話をもっと聞きたかった。』などの感想がありました。

主催者の山城病院教育委員会中井副院長は、「木津川市誕生



「看護の日」健康フェスタ2007

5月11日、健康フェスタ2007が行われました。白衣の天使・ナース・看護師を記念する「看護の日」の行事として毎年恒例となっております。

看護の日イベント開催のお知らせを、市役所や近隣のスーパーに手製のポスターを貼らせて頂き、病院ホームページに掲載し、準備して参りました。

フェスタ開催場所の正面玄関一階通路では、看護師による体脂肪測定や血管推定年齢測定が行われました。また、医師や管理栄養士、ソーシャルワーカーによる相談窓口を設けて、病気についての相談や生活習慣病予防の食事療法、介護についての相談などを受けました。

当日のイベントに参加された患者様やご家族は145名、記念品として準備した看護の日グッズ（救急絆創膏、ハンドタオル、ピンクのナイロンポーチ）をお渡しすることが出来ました。

参加された患者様は「毎年参加しており、自分は若いと思っていたの



血管推定年齢測定

に、血管年齢を聞いてショック、これを機会に禁煙するわ！ 今回の測定結果が禁煙決断のきっかけになった。」などと語っておられました。

看護の日実行委員会では、開催場所や測定器具の種類など課題や改善点はいくつかありますが、来年度も楽しく、健康に役立つ企画を検討していく予定です。



あじさい会



6月9日（土）第6回あじさい会が開催されました。あじさい会は山城病院乳がん手術後の患者会として発足し、共通の話題や知りたい情報の提供を行ってきました。2005年から年2回開催されて今年で3年目を迎えます。今回のテーマは、

① 乳がん術後の上肢浮腫について
中井副院長

② 快適なリマンマ・ライフ
西村えり子氏
(下着メーカー事業部)

であり、講演の後、親睦の茶話会が行われました。

事前申込者などを含め参加者は18名、他に病院からのボランティアスタッフ7名が参加しました。



上腕計測 (上) 人口
乳房と下着の展示

会長をはじめ参加者のほとんどが顔なじみで、半年ぶりに再会され

る方もおられました。「お互い、この半年を元気に乗り切ることが出来た。」と参加者が互いの健康を確認し喜び、励まし合いました。

今回の講演は、乳がん術後の上肢浮腫について、基礎知識や日常生活での注意点や予防対策などを説明され、手術後の悩みを和らげる方法として、人工乳房や美しい下着の紹介も行われました。茶話会では、中井副院長に相談や質問が飛び交い、終始和やかな雰囲気でした。

参加者には、ピンクリボンのピンブローチ、エコバック、ボールペンなどが配られました。

ピンクリボン



乳がんの
早期発見、
早期診断、
早期治療の大切さを
広める運動のシンボルです。

乳がんは早期に発見し適切に治療を行うことで治すことが出来ます。あなたの家族、あなたのために検診を受けましょう。

診療科紹介

《泌尿器科》



中河 裕治 副院長

公立山城病院泌尿器科は、平成11年4月に新設され、私が初代医長として赴任、その後人工透析担当の細井先生が赴任され、現在に至っています。

開設当時を振り返ると、看護師に対する泌尿器疾患特有の処置や経過観察方法の指導、新たに導入された結石破碎装置の稼動と、私には泌尿器科立ち上げという使命に満ちた充実した時間でした。赴任後8年が経過し、京都府南部の中核病院として、尿路結石症や尿路性器癌の診断治療に中心的な役割を担えるまでに発展してきました。

私が目指す医療は、患者さんと医者が同じ土俵に上がり、一緒になって治療を進めていく事です。今後も泌尿器科の敷居を低くして、

患者さんが相談しやすい環境作りに励みたいと思います。



細井 信吾 医長

腎不全とは、腎機能の低下を来した状態で自分の腎臓だけでは生命維持に危険を及ぼすときに透析治療が必要となります。

当科の診療は、第一に原因疾患の発見及び治療、次にできるだけ現在の腎機能を維持するよう努力し、最後に腎不全に至った際に透析等の治療に問題なく移行するという3点を重要と考えます。

第一の原因疾患ですが、メタボリックシンドロームの言葉を聞かない日はなく、糖尿病は腎障害の原因でもあります。現在日本では25万人以上の方が透析治療を受けておられますが半分以上が糖尿病によるものです。この場合は内科に譲るとして他疾患が原因の時は当科にて検査を行います。外来での尿検査等や入院して腎生検等の

検査を行い治療します。泌尿器科的な処置が有効な時もあります。

次に腎機能の維持ですが症状がないだけでなく採血により腎機能異常が指摘されない場合でも蛋白尿の存在や、血尿などの異常から将来の腎機能低下が疑われる時には検査、生活指導、内服等により増悪を防ぎます。栄養科スタッフによる栄養指導も有効です。

最後に腎機能低下が進行し透析等の治療が近い将来必要になってきた場合は不安なく透析治療に移れるよう透析室スタッフとともに準備を行います。

当科では他科の医師やスタッフと連携を取りいづれの段階でも早期治療を始めることで腎不全の進行を遅らせるようまた心理的負担の少ない透析治療が行えるよう努力しております。



豆知識

はやり目(流行性角結膜炎)

細菌、ウイルス、花粉など様々なもので、結膜(白目)に炎症は起こります。そのうち、感染性が強く集団感染をおこす、いわゆるはやり目とよばれる流行性角結膜炎についてお話します。

流行性角結膜炎はアデノウイルスというウイルスで起こります。眼からの分泌物を介して伝染し、感染してから、7〜14日後に発症します。充血し、目やにがたくさんでてまぶたも腫れたりします。他の感染予防のための抗生物質の点眼薬や、炎症をおさえるためのステロイドの点眼薬を使用しますが、この病気に効く点眼はありませんので、基本的には治るのを待つだけになります。この病気で一番大切なのは感染力が強いため、人にうつさないようにすることです。発症してから約12日間はウイルスを排出しているといわれます。眼は触らないようにし、手洗いをし、しっかりして家族ともタオルは別にし、学校、職場は許可がでるまでお休みして下さい。

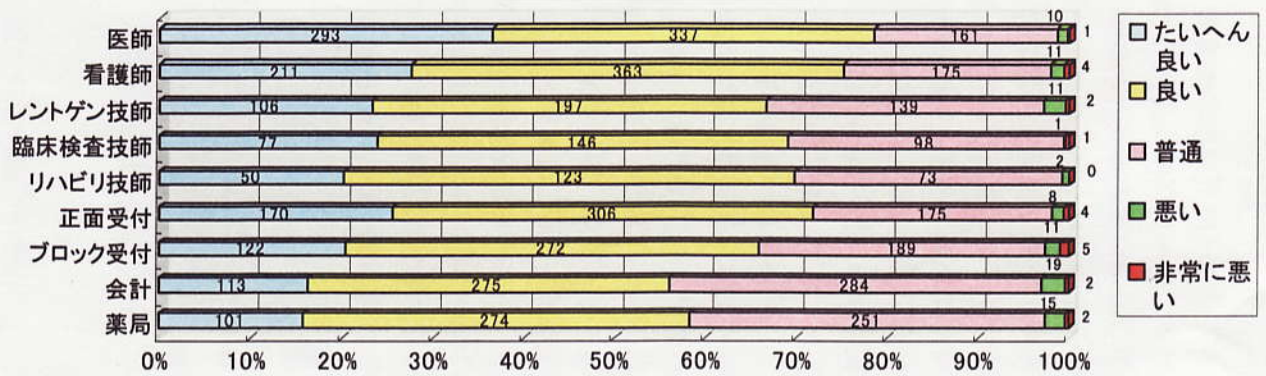
眼科医長 園村 有紀子

外来アンケート 調査結果

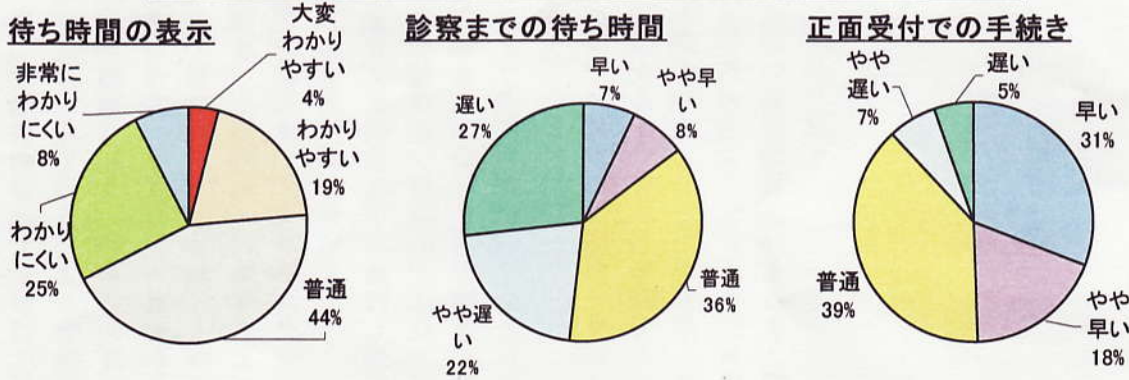
5月21日(月)～25日(金)までの5日間、当院外来受診された患者様からアンケートによるご意見をお聞かせ頂きました。当院に受診された経緯、職員の接遇、待ち時間、知人に紹介したいと思うか、次回も当院を利用したいと思うか、以上の内容についてアンケートを実施しました。アンケートにお答え頂いた患者様は総数801名で、男性44%、女性50%、無回答6%であり、年齢別では60歳代・70歳の患者様から多く回答を頂きました。

外来受診した経緯は、医療施設・設備が良い、交通の便が良い、職員が親切・対応が良いが中心でした。その他のアンケート結果内容については、下記のグラフにて参照して下さい。

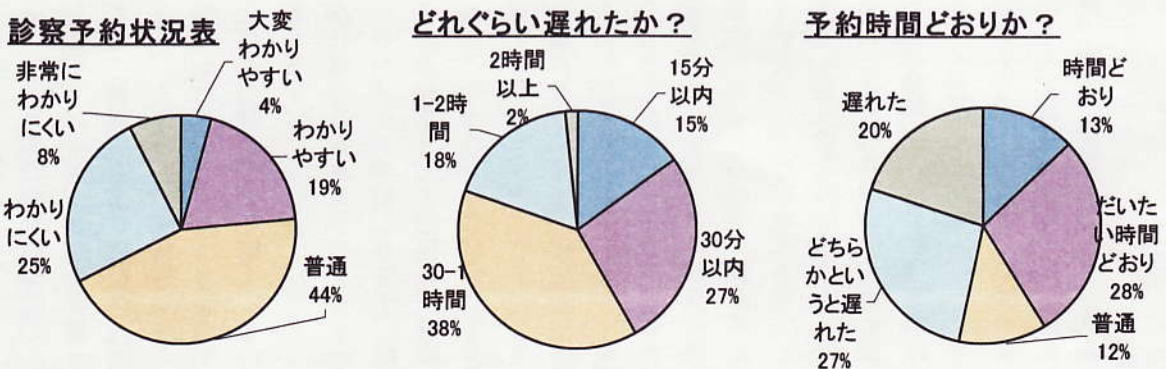
職員の待遇面について



初めて受診される方、または予約をとられていない方の待ち時間

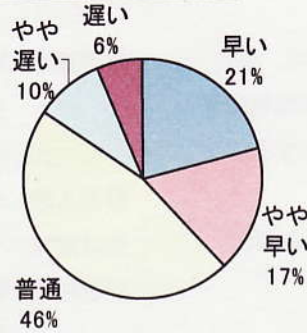


予約をとられている方の待ち時間

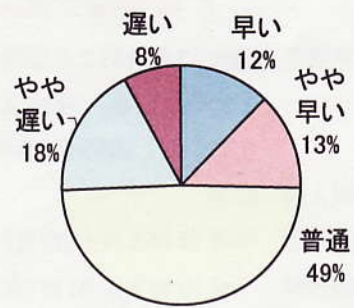


その他の待ち時間

薬をもらうまでの時間

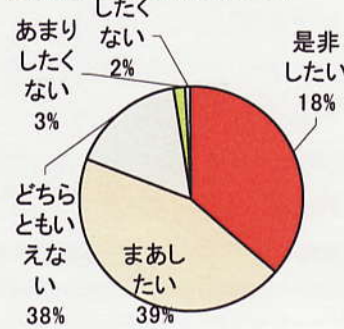


請求書渡すまでの時間

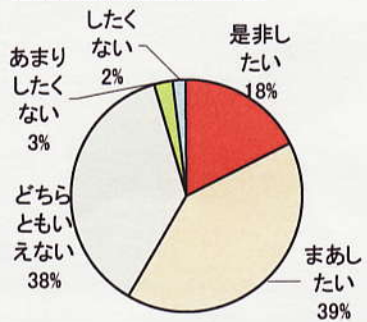


次回も当院を利用したか・当院を知人等に紹介したい

次回も当院を利用したいか



当院を紹介したいか



昨年との比較・考察などの詳細については、後日院内に掲示致します。アンケートのご意見を参考にさせて頂き、改善に向けて努力し信頼される病院づくりを行って参ります。ご協力ありがとうございました。

「夏バテ」予防は食事の管理から

夏は、汗をかくことによってビタミンやミネラルが失われるため、それらを補っていく食事が大切です。慢性的な疲労である「夏バテ」予防のため、ビタミン B₁ などの栄養素を中心としたバランスの良い食事を心がけましょう。

◆ おからゴーヤチャンプル ◆ (1人分: 187kcal、たんぱく質 8.8g、塩分 1.4g)

【高たんぱく質で低脂肪のおからとビタミン B₁ 豊富なゴーヤで作る 1品】

【材料 2人分】



- ゴーヤ 100g、 塩小さじ 1/6、 赤ピーマン・セロリ 各 40g、
- ロースハムの薄切り 2枚、 おから 60g、 卵 1個、
- 油小さじ 2、 調味料 (醤油大さじ 2/3、 みりん・酒 各大さじ 1)

【作り方】

- ①ゴーヤはたて半分に切って、種とわたをスプーンで取り除き、薄く切る。
- ②塩をふってしばらくおき、手でもんで水洗いし、水気を切る。(または、塩ゆでする)
- ③ピーマンとセロリはせん切り、ハムは短冊切りをする。
- ④なべに油を熱して①②を炒め、おからとハムを加えてさらに炒める。
- ⑤とき卵を回し入れ、調味料を加え混ぜる。

その他、ビタミン B₁ を多く含む代表的な食品は、【うなぎ、豚肉、鯛、ぶり、大豆、枝豆、モロヘイヤ、ほうれん草、玄米、ごま】などです。

公立山城病院 職員募集

《 看護師・助産師 》

応募資格：昭和43年4月2日以降の出生者で、免許取得者に限る。(平成20年3月卒業見込者も可、但し国家試験合格を条件とする。)

募集人数：60名

受付期間：平成19年8月6日(月)～8月27日(月)

試験日時：平成19年8月28日(火)

《 事務職員 》

応募資格：昭和53年4月2日以降の出生で、高等学校以上の学歴を有する者。(平成20年3月卒業見込者も可)

募集人数：若干名

受付期間：平成19年8月13日(月)～8月27日(月)

試験日時：第一次筆記 平成19年9月16日(日)
第二次面接 平成19年10月中旬(予定)

* 詳細については、公立山城病院庶務課に御連絡下さい。Tel 0774-72-0235

第6回 生活習慣病フォーラムのお知らせ

内臓脂肪をどうしたら減らせますか？

どうしたら改善できますか？

日 時：平成19年10月28日(日) 午前10時～12時

場 所：公立山城病院 9階 会議室

参加費は無料です。お気軽にお越し下さい。



防ごう



咳の飛沫は約1m飛ぶことをご存知ですか？感染予防のためにマスクをすることを「エチケットマスク」といいます。

外来を受診される患者様へお願い

- ☆咳・熱の続いている方は、外来に受診するときはマスクをしましょう。
- ☆咳・くしゃみをするときは、ハンカチやティッシュで口元を覆いましょう。
- ☆咳・下痢・発疹・発熱などの症状がある患者様は、受付にお申し出下さい。
- ☆各ブロック・診察場所に備え付けの手指消毒薬は、感染予防のためにご自由にお使い下さい。

公立 山城病院

〒619-0214

京都府木津川市大字木津小字

池田 74 番地の 1

Tel 0774-72-0235

Fax 0774-72-2155

予約変更時

Tel 0774-72-2314

ホームページアドレス

<http://www.yamashiro-hp.jp>

公立山城病院 広報委員会

今年、猛暑ではなく酷暑になると言われており、体調管理は例年以上に注意が必要となりそうです。夏バテや熱射病などに気を付け、夏を乗り切りましょう。

公立山城病院新聞は、今回第4号目となります。今後は、地域の皆様のご意見を反映した新聞作りを行い、皆様に公立山城病院をより身近な存在として頂けるよう努めて参りたいと思えます。

編集後記